中学校　道徳　部会

部会長名　　校長　井上　修一
実践者名　　教諭　岩野　桃香

1　研究主題

道徳的価値を自分自身のこととして捉え、
自己の生き方についての考えを深める道徳科の在り方
～自己理解をする場を位置づけた授業構成と自己を振り返る学習活動の工夫～

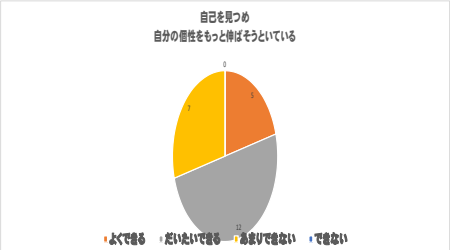
2　主題設定の理由

（１）社会的な要請と新学習指導要領の動向から

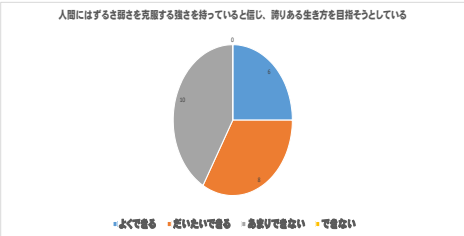
道徳教育は、「中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説　特別の教科　道徳編」の「第 1 章　1　改訂の経緯」には、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、物事の本質を考える力や何事にも主体性をもって誠実に向き合う意志や態度、生きる力を育むために重要である。今日までに道徳教育は大きく 2 つの成果があげられたと言われている。1 つは、道徳授業に特有の型が確立されたことである。導入では、ねらいとする道徳性への方向付け、展開前段では読み物資料を使って登場人物の気持ちを共感的に追求・把握し、展開後段では、ねらいとする道徳的価値の一般化を図り、終末では、道徳的価値についての整理という型である。しかし、型にはまるために授業のマンネリ化やマンネリ化による学習意欲の低下が起こる可能性がある。2 つは、道徳授業の本質や特性が明確に提示されたことである。しかし、道徳授業の本質や特性に拘束されてなかなか実効性が上がらないこともあげられる。ねらいとする道徳的価値の理解はできても、自分の生活経験には活用・応用されないことが多いことが原因である。道徳授業に対しても、生徒たちも意欲は低く、道徳的価値の理解はできるが、自分のこととして捉えることはできていない。

（２）生徒の実態から

本学級の生徒に、「道徳生活アンケート」を行った。その中でも、「よくできる」が低かった３つの項目である。「自己を見つめ自分の個性をもっと伸ばそうとしている」という質問に対して、だいたいできると答えた生徒は２４人中１２人、あまりできないと答えた生徒は７人という結果から、生徒は自己の目標をたて、伸ばしていこうと強い意志をもって取り組む生徒が少ない。また「人間にはずるさ弱さを克服する強さを持っていると信じ、誇りある生き方を目指そうとしてる」という質問に対して、だいたいできると答えた生徒は２４人中８人、あまりできない

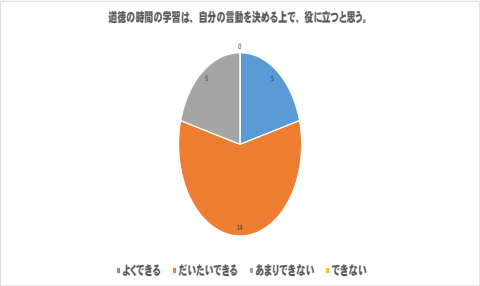


（図１　「道徳生活アンケートの結果」）



（図２　「道徳生活アンケートの結果」）

と答えた生徒は１０人という結果から、自分の弱さに対して考えたり、実感するなど振り返ることがなく、理想とする生き方を持たずに生活していると考えられる。また、「道徳の時間の学習は、自分の言動を決める上で役に立つと思う」という質問に対して、だいたい思うと答えた生徒は２４人中１４人で、あまり思わないと答えた生徒が５人という結果から、自己の生き方について考え、道徳の授業の学習が実生活に生かすことができている生徒が少ない。このことから、道徳の授業の学習において主体的に受ける生徒、道徳的価値について自分ごととして考えている生徒が少ないと考えられる。



（図３　「道徳生活アンケートの結果」）

これまでの授業では、道徳的価値を位置づけた授業構成を行ったが、自分との関わりのなかで生徒に考えさせることができていなかった。例えば発問では、資料の人物の心情を考える発問が多く、自分自身の考えを書くことができない生徒が多くいた。また、多角的・多面的に考えさせるために、交流活動を取り入れても、他の人の意見を聞くだけで、相手の意見を聞き、自分自身の考えを深めることができていなかった。終末では、授業の振り返り場面で、今日の授業で学んだことだけをワークシートに記入し、自分自身の中で振り返らず、正しいと考えられる答えを記入する生徒が多く、その学んだことからどのように自己の生かしていきたい、という記述は少なかった。人間的な弱さを感じる手立てや、改めて自分自身を振り返る場の設定、発問ができていなかった。そして、学習活動も型にはまった授業であったため、自分との関わりのなかで、他の人の意見を聞きながら、もう一度自分自身を振り返り、自己の生き方を考えさせる道徳授業を行う必要があると考え、本主題を設定した。

３　主題の意味

「自分自身のこととして捉え」とは、学習の展開において、発問に対して自分自身の立場に置き換え、その理由や根拠も明確に考えることである。

「自己の生き方についての考えを深める」とは、道徳的価値を自己で考え、他者と交流することで、自己の意見を伝えるだけでなく、他者の考えから、自己の考えを深めることができることである。

「自己を理解する場を位置づけた授業構成」とは、人間としてより良く生きる上で大切であると理解する「価値理解」、道徳的価値は大切であってもなかなか実行できない人間の弱さなども理解する「人間理解」、道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方や考え方は多様であるということを前提として理解する「他者理解」、自分との関わりの中で道徳的価値を捉える「自己理解」、この４つの道徳的価値の理解する場を導入、展開の前段・後段、終末に位置づけ、道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めることである。

「自己を振り返る学習活動の工夫」とは、終末段階において、道徳的価値につい

て葛藤や、大切さについて学び、今までの自分を振り返り、これから道徳的価値をどのように生かしていきたいと考えることができることである。

4　研究の目標

自分自身のこととして捉え、自己の生き方についての考えを深める生徒を育てるために、道徳科の道徳的価値を理解する学習において、自分との関わりの中で考える発問を位置づけた授業構成と、自己を振り返る学習活動の工夫の在り方を究明する。

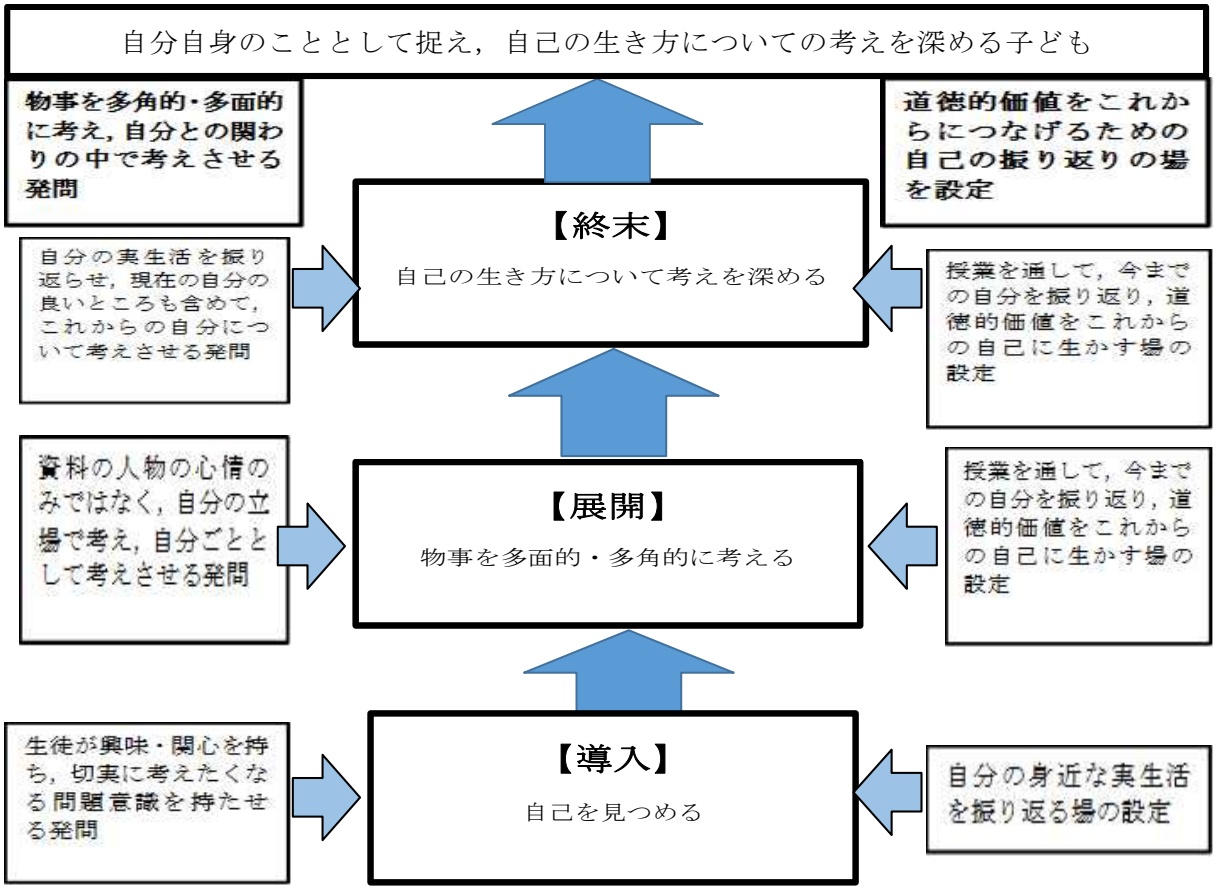
5　研究仮説

道徳科の道徳的価値を理解する学習において、以下の手立てを仕組めば、自分自身のこととして捉え、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。

（１）　物事を多角的・多面的に考え、自分との関わりの中で自己理解することができる発問

（２）　道徳的価値をこれからにつなげるための自己の振り返りの場の設定

6　研究の構想



（図４　研究の構想図）

7　研究の実際

本研究で行った、２つの道徳の授業の実践について「①物事を多角的・多面的に考え、自分との関わりの中で考えさせる発問」、「②道徳的価値をこれからにつなげるための自己の振り返りの場の設定」の手立てを中心に以下説明している。

（１）授業実践１の実際と考察

①　授業の概要

1　主題名：「かけがえのない命」

2　内容項目：「D-１９　生命の尊さ」

3　ねらい：「命は代替不可能でかけがえのないものだが、他の人につなぐことができる場合もあるということを理解し、生命を尊重する意欲を養う。」

4　展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1「命」についてのイメージを考える。 あなたは「命」と聞いてどのようなものだとイメージしていますか？	○かけがえのないものと考えさせるために、「命」について考えさせ、板書する。
	2ドナーカードを見て、知っていることを発表する。	○ドナーカードの役割についてふれるために、ドナーカードの写真を見せる。
	めあて：生命の尊さについて考えよう。	
展開	3資料を読み、夫の気持ちを考える。 なぜ、夫は白紙のドナーカードを見て、答えがでないのでしょうか ・簡単なことではないから	○かけがえのないものであるからこそ、簡単に移植できないことに気づかせるために、夫の気持ちを考えさせる。
	4自分の立場で臓器移植について個人で考え、グループ交流、全体交流をする。 あなたが夫の立場なら、妻の臓器提供に賛成ですか？反対ですか？理由も含めて書きなさい。	○臓器移植に対しての葛藤を感じ、生命はかけがえのないものと実感させるために個人で考えさせる。 ※心情円盤を用い、パーセンテージで考えさせる。 ※意見が対立することで自分の意見を深めさせる。
終末	5命の大切さについて考える。 「命」についての考えの変化を書き、これから「命の大切さ」についてどのように考えて生活していきますか？	○自分の中で命の尊さをもう一度考えさせるため、「命」についての考えの変化から、生活につなげる。

② 授業の実際

ア 物事を多角的・多面的に考え、自分との関わりの中で考えさせる発問

○ 導入における発問

導入で、次の発問を行った。

あなたは、「命」と聞いて、どのようなものだとイメージしますか

普段から命というものは大切だと分かっているが、もう１度改めて考えさせ、かけがえのないものであり、大切にしなくてはいけないと考えさせるために発問を設定した。生徒の意見では、以下のことがあげられた。

・かけがえのないもの
・失ったら二度と戻ってこないもの
・１人の人間に１つしかないもの

（資料１ 実践１の導入場面の生徒の意見）

生徒の意見から、命はかけがえのないものであり、命の大切さについて理解していることが分かった（資料１）。

○ 展開における発問

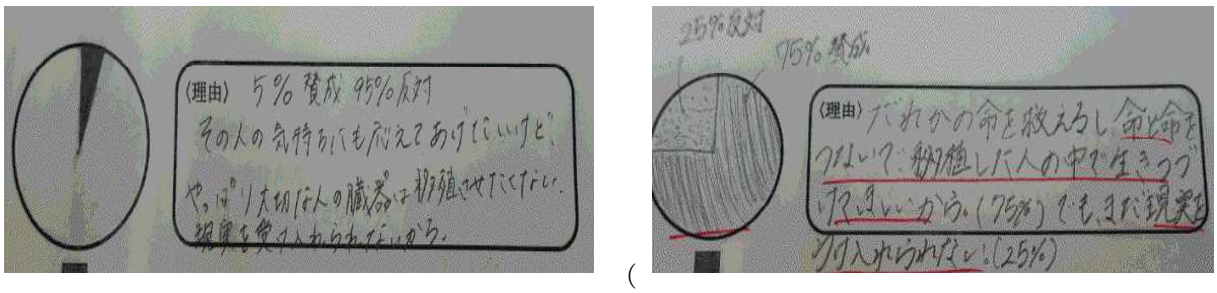
展開では、最初に資料の人物の心情を理解させるための発問を行った。そして、人物の心情を理解した上で、自分との関わり、自分ごととして考えさせるために、次の発問を行った。

あなたが夫の立場なら、妻の臓器提供に賛成ですか？反対ですか？理由も含めて書きなさい。

命は大切であり、自分の身近な人、大切な人の命だからこそ、臓器提供に対して反対したい気持ちと、妻が臓器提供してほしいと願っていて、命を尊重し賛成という気持ちの葛藤を感じ、命はかけがえのないものだと実感させる。ワークシートに記入し考えさせるときは、心情円盤で表すように行った。この発問からグループで交流させ、賛成、反対について理由も含めて述べ、対立する意見の中で議論をさせた。生徒の意見では、以下のことがあげられた。

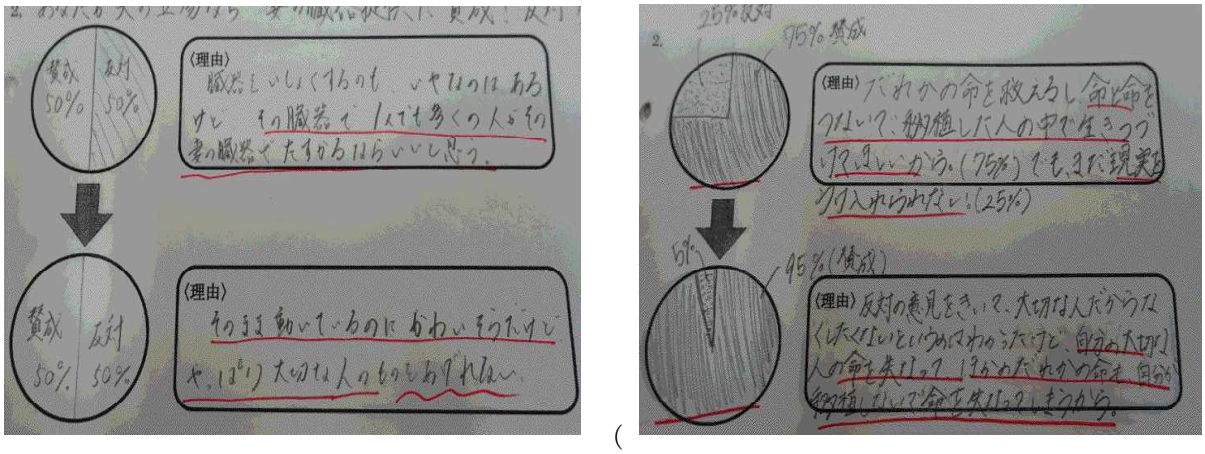
（反対）
・命は二度と戻ってこないからこそ、臓器提供に反対
・大切な人の命だから、臓器提供に反対
（賛成）
・妻が望んでいたことだからこそ、賛成
・二度と戻ってこないからこそ、今ある命を繋げるべきと考えるから賛成

（資料２ 実践１の展開場面の生徒の意見）



（写真１　実践１の展開場面の生徒の賛成、反対についてのワークシート）

生徒の意見から考えられることは、賛成、反対の立場で自分のこととして、葛藤しながら、命について考えている。命は**「かけがえのないものであり、大切である」**ということを自分ごととして考えることができたということである（写真１、２）。



（写真２　実践１の展開場面の生徒のグループ交流前後のワークシート）

また、グループで交流を行うことで、他者の意見を聞き、自分の考えが変わる生徒や、変わらない生徒もいた。このことから、**グループ交流で相手を納得させるような意見を述べる生徒もいて、より自分ごととして考えていた**（写真２）。

展開では、臓器提供に対しての葛藤から、賛成・反対意見の立場から命の大切さについて「他者理解」を取り入れ、多面的・多角的に自分ごととして道徳的価値を考える発問を行った。

イ　道徳的価値をこれからにつなげるための自己の振り返りの場の設定

終末段階において、命の大切さを感じ、これからの生活に生かしていくために、今までの自分たちの言動について振り返る場面を設定した。授業の授業で学んだことと、今後どのように過ごしていくか個人で考え、ワークシートに記入を行う前に、次のことを考えさせた。

今、生活している自分自身の行動は、命を大切にできていますか？

自分自身を振り返ることで、今後どのように生活していくべきなのか、命を大切にするとは身近なところでどのようなことなのか考えさせ、これからにつなげるための自己の振り返りの場の設定を行った。生徒の意見では、以下のことがあげられた。

・簡単に「死ね」と言ってしまい、命は大切と思っていても、行動できていないところがある。
・人が困っているときに、話しを聞いてあげたり、相談にのってあげたりして、命を大切にするために、友達のことを大切にしている。

（資料３　実践１の終末場面の生徒の意見）

生徒の意見から、普段何気なく生活している中で、命は大切と分かっていても、行動できていなかったり、命を大切にするために、友達を大切にしようと考えて行動しているなど、**実生活を振り返る**ことができている（資料３）。

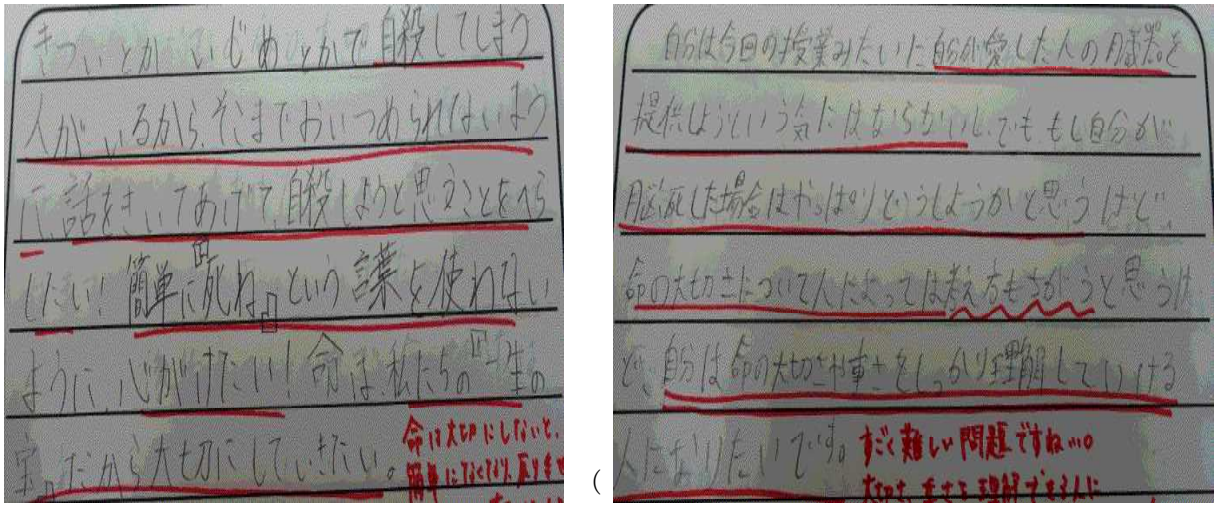
そして、自己を振り返り、今後につなげていくために、次の発問を行った。

「命」についての考えの変化を書き、これから「命の大切さ」についてどのように考えて生きていきますか？

自己を振り返り、命を大切にするということが、どのようなことなのか、どのように行動していくことなのかを、これからの行動を具体的に自分の生活の中で考えさせるために、発問を設定し、以下のような生徒の意見があげられた。

・臓器提供については、賛成ではないが、他の人の話を聞いて、臓器提供をして、他の人に命をあげて、受け継いで欲しいと思う。
・臓器提供については、賛成や反対と言えないが、命は一生の宝だから、大切にしていきたい。

（資料４　実践１の終末場面の生徒の意見）



（写真３　実践１の終末場面の生徒のワークシート）

生徒の意見から、臓器提供に賛成、反対という意見を他者と交流した結果、臓器提供は次の人に命をつなぐものであるということは理解できていた。生徒の意見から、**命は「かけがえのないもの」「大切なもの」**と考えていることが分かった。そして、命を大切にしていくために、相談にのってあげたり、言葉の使い方に気をつけるなど、**実生活の中で実践していこうとする具体的な行動**があげられている。また、「命の大切さが分かる人になりたい」と、**今後自分自身がどのようになりたい**と考え、より自分のこととして捉え、自己を振り返っていると考えられる（資料４、写真３）。

（２）授業実践２の実際と考察

①　授業の概要

1　主題：「遵法精神」

2　内容項目：「C － 10　遵法精神，公徳心」

3　ねらい：「主人公ジェームズの生命尊重と遵法精神との葛藤を、自分ごととして考えることを通して、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、今後はそれを遵守していくことが大切であるという心情を高める。」

4　展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	１、今までにしていはいけないと分かっていても悪いことをしたことがないか振り返る。 今までに、してはいけないと分かっていても悪いことをしたことがありませんか？	○自分の弱さ、ずるさを考えさせるために、悪いことをしたことがないか振り返らせる。
	めあて：きまりの大切さについて考え、自分にとっての生きるヒントを見つけよう。	
展開	２、資料を読み、ジョーンズ氏の行動について考える。 （１）ジョーンズ氏の行った行動の理由について考える。 なぜ、ジョーンズ氏は犯罪を犯してまで、きまりを無視して、このような行動をとったのだろうか？	○ジョーンズ氏が我が子を思うあまりに取った行動について考えることで、ジョーンズ氏の人間的弱さに気づかせる。
	（２）ジョーンズ氏のとった行動について、個人で考え、全体で議論する。 あなたは犯罪をおかしたジョーンズ氏の取った行動に、賛成ですか？反対ですか？それはなぜですか	○ジョーンズ氏のとった行動を考えることを通して自分たちの心の中にある、人間的弱さについて考えさせる。 ○教室を「賛成」「反対」「どちらでもない」の３つに分け、意見を全体で交流する。
	３，法やきまりの大切さについて考える。 ※（パターン１）ねらいが生徒の意見から出た ジョーンズ氏はどのように行動すれば良かったと思いますか？	○ねらいを考えさせるために、生徒の意見から２つの展開を予想し、考えさせる。

	※（パターン２）ねらいが生徒から出ない どうして、きまりは大切なのでしょうか？	○きまりの意義を理解し、きまりを守っていく大切さをより深く考えさせるために、ジョーンズ氏の行動について考えさせる。
終末	５，自分たちの生活できまりを守ることの大切さについて自分の意見をまとめる。 今日の授業を通して、きまりの必要性について考え、今までの自分を振り返り、今後の自分自身の生きるヒントをまとめてみよう。	○「私たちの道徳」の 136 ページを読み、きまりについて考える。 ○自分の利害得失に関係なくきまりは大切であると理解し、これからの生活に生かしていくために、法やきまりの大切さについて自分の意見をまとめる。

②　授業の実際

ア　物事を多角的・多面的に考え、自分との関わりの中で考えさせる発問

○　導入における発問

導入で、次の発問を行った。

今までに、してはいけないと分かっていても悪いことをしたことはありませんか？

価値への方向づけを行うために、今までの自分自身を振り返らせた。生徒の意見から、「どうしてきまりはあるのか？」「どうしてきまりを守らなくてはならないのか？」と補助発問を行った。

・赤信号で渡った。　・立入禁止の場所に入った。　・決まりをやぶった

・きまりを守らないと、危なくなる。・きまりを守ることで安全が保たれる。
・社会が乱れないようにするため。

（資料５　実践２の導入場面の生徒の意見）

生徒の「赤信号で渡った」という意見や、「立入禁止の場所に入った」という意見から、補助発問を行うことで、「きまりは安全に過ごすため、守らなくてはいけない」ものだという**きまりの意義を実生活の中**から考えさせることができた（資料５）。

○　展開における発問

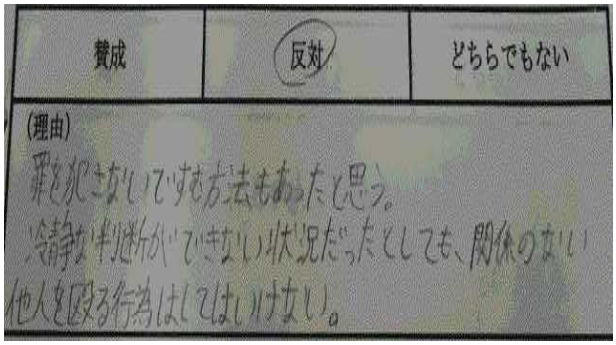
展開では、犯罪をおかしてまで行ったジョーンズ氏の気持ちを考えさせる発問を行った。我が子を思うあまりに犯罪をおかしたジョーンズ氏の人間的な弱さに気づかせる。そして、ジョーンズ氏の取った行動について自分ごととしてより考えを深めるために、次の発問を行った。

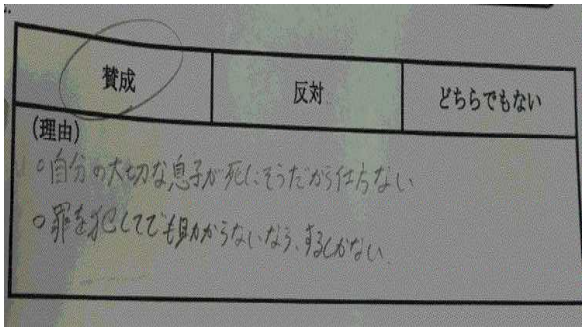
あなたは犯罪をおかしたジョーンズ氏の取った行動に、賛成ですか？反対ですか？それはなぜですか？

ジョーンズ氏の取った行動の背景には、「我が子のために」「命を優先するべき」という考えがある。だから、きまりを破り、犯罪をおかしてまでも、取るべき行動だと賛成する気持ちと、我が子も大切ではあるが、他の人も巻き込み、犯罪までおかすことは間違っていると反対する葛藤を感じさせ、人間的弱さを自分ごととして考えさせる「人間理解」を取り入れた発問を行った。この発問では、「賛成」「どちらでもない」「反対」という 3 択で考えさせ、全体で議論を行った。生徒の意見では、以下のことがあげられた。

（賛成）
・我が子が大切だから
・死んでしまったら、会えなくなる。捕まっても、命が助かれば会える
（どちらでもない）
・きまりを破ってはいけないが、命も大切
・命を守りたいが、何か方法があったのではないか
（反対）
・他の人も巻き込んではならない
・違う事故を引き起こすことがあるからこそ、決まりを守るべき

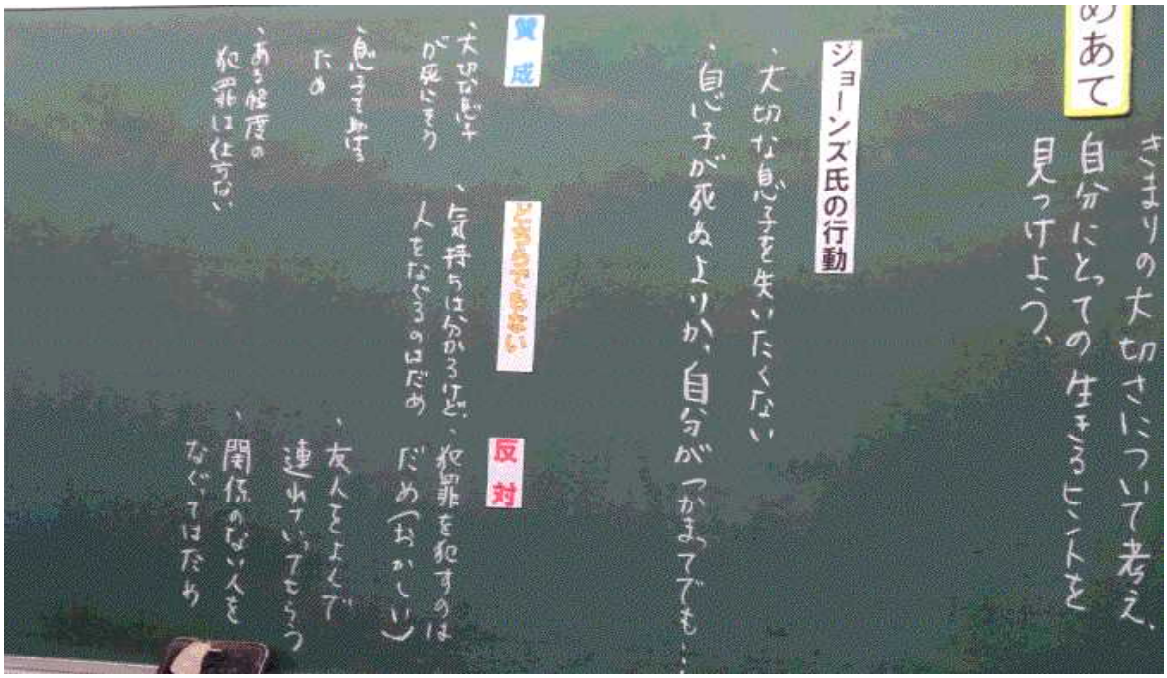
（資料６　実践２の展開場面の生徒の意見）





（写真４　実践２の展開場面の生徒のワークシート）

生徒は、主人公のジョーンズ氏の行動について、自分も同じ立場となり考えた。命を優先するべきだという賛成意見と、関係のない人を巻き込むことは良くないという反対意見と、きまりを守らなくてはいけないが、命も大切というどちらでもない意見で分かれた。それぞれ、**ジョーンズ氏の立場となり自分のこととして考えることで、きまりの大切さも感じるが、命を優先したいという心の葛藤を実感**していた（資料６、写真４）。



（写真５　実践２の展開場面の議論の板書）

議論では、「賛成」「どちらでもない」「反対」と場所も分け、議論をさせた。命が大切であるから、犯罪をおかしてまで行っていいという意見や、死んでしまうと会うことができなくなるという命を優先にすると、賛成の意見の生徒は考えた。命も大切ではあるが、他に手段があったのではないか、関係のない人を巻き込むのは良くない、他の人を巻き込み違う展開が起きてしまうと、反対の意見の生徒は考えた。命を失うと、２度と会うことができないという意見と、冷静な判断ができないところや、他の人を巻き込むことや、他の自己につながるという議論が行われ、自分のこととして考えることができていた（資料 19）。

それぞれの意見をきき、多面的・多角的に考えさせた。議論を行い、価値の一般化をはかるために、次の発問を行った。

どうして、きまりは大切なのでしょうか？

ねらいである「法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、今後はそれを遵守していくことが大切である」という考えが、展開の議論で生徒から出なかったため、次の発問を「どうしてきまりは大切なのだろうか？」とし、きまりが存在する意義について理解し、きまりの大切さについて考えさせるための、「価値理解」の発問を行った。補助発問として、「きまりがないと、どのようなことが起きてしまうのか」、「きまりがあるからどのように生活しているのか」という発問を行った。生徒の意見は以下である。

・きまりがあるから、安心して暮らすことができている。きまりがなくなったら、自分や他人が何をしても許されてしまう。
・きまりがなかったら、犯罪ばかり起きるかもしれないけど、きまりがあったらみんなが安心して過ごすことができる。
・人々が安全に安心して過ごすため。決まりがあるから、毎日笑って生活できているから、

（資料７　実践２の展開場面の生徒の意見）

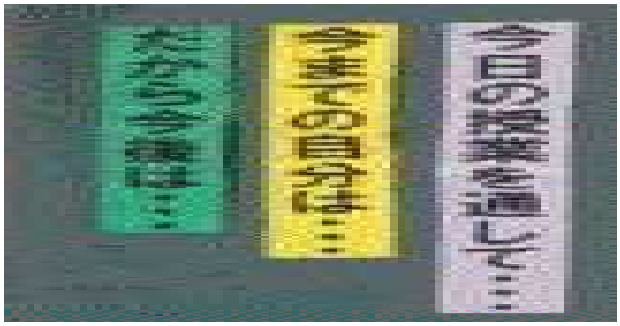
生徒の意見から、きまりが存在する意義について、考えることができていた。現在の自分自身の身の回りのきまりについて考えることによって、きまりの大切さを実感し、「きまりは自分だけではなく、自分を含めた人々の生活を安心して過ごすためにある」というきまりの意義を改めて考えることができていた。また、**何気なく生活していた日々を振り返ることで、現在安心して過ごすことができていること気づき、きまりの大切さを実感**することができていた（資料７）。

イ　道徳的価値をこれからにつなげるための自己の振り返りの場の設定

終末段階において、きまりは自他の生活や権利を守るためにあり、今後きまりを遵守していくことが大切であるということの理解を深めるために、まず教師の説話として『私たちの道徳』の 136 ページの内容を読み、きまりの意義について理解をさせた。そして、きまりの意義について理解したうえで、これからにつなげるための自己の振り返りの場の設定を行うために、次の発問を行った。

今日の授業を通して、きまりの必要性について考え、今までの自分を振り返り、今後の自分自身の生きるヒントをまとめてみよう。

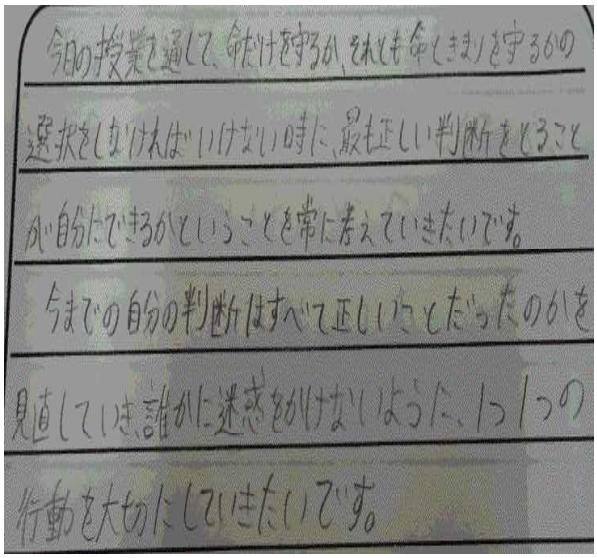
議論を行い、人間的な弱さを実感しながらも、きまりの意義についてより理解を深めるために、『私たちの道徳』を読み、きまりは自他の生活や権利を守っているものであり、きまりを守ることができなければ、秩序が乱れ、成り立たなくなるため、きま　りを守ることは大切であるという「価値理解」を取り入れた。そして、自分ごととして考えさせるために、『生きるヒント』をキーワードとして、自己の振り返りの場の設定を行った。生徒の振り返りで、以下のことが考えられていた。

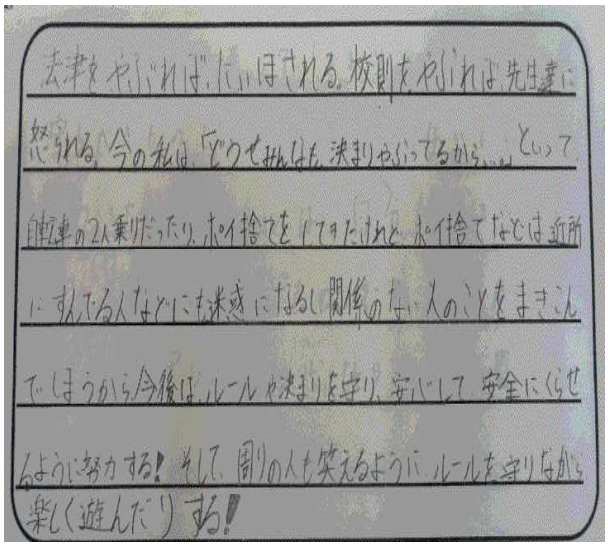


（写真６　振り返りの場のフォーマット）

・今までは、きまりは大切だと分かっていたけど、守れていない部分があった。だから今後は、きちんときまりを守り、人に迷惑をかけないようにしていきたい。
・今日の授業を通して、きまりを守ることは自分と相手や社会が成り立つためのものにあると学んだ。ジョーンズさんの取った行動は気持ちは分かるが、きまりは守らなくてはいけないもの。今までは、これくらいはいいだろうと思う部分があった。だから今後は、きまりがある意味を考えて、きまりを守り、生活していきたい。

（資料８　実践２の終末場面の生徒の意見）


今日の授業を通して、命だけを守るか、それとも命ときまりを守るかの選択をしなければいけない時に、最も正しい判断をとることが自分にできるかということを常に考えていきたいです。
今までの自分の判断はすべて正しいことだったのかを見直していき、誰かに迷惑をかけないように、1つ1つの行動を大切にしていきたいです。


法律をやぶれば、たいほされる。校則をやぶれば、先生達に怒られる。今の私は「どうせみんなも、決まりやぶってるから…」といって自転車の2人乗りだったり、ポイ捨てをしてきたけれど、ポイ捨てなどは近所にすんでる人などにも迷惑になるし、関係のない人のことをまきこんでしまうから今後は、ルールや決まりを守り、安心して安全にくらせるように努力する！そして、周りの人も笑えるようにルールを守りながら楽しく(遊んだり)する！

（写真７　実践２の終末場面の生徒のワークシート）

生徒の意見から、授業の議論でジョーンズ氏の行動について気持ちは分かるが、展開でのきまりの大切さについて考えることができているため、今までの自分自身を振り返り、今後どのように生活していきたいか自分のこととして、考え、振り返りをしていることが分かる。きまりの意義を理解した上で、素直に今までのきまりに対しての反省や課題を見つけ出し、今後の行動の仕方、自分だけでなく、周りの人のことも考えることができていた。きまりの大切さを実感し、『生きるヒント』として、自分なりの道徳的価値をこれからにつなげるための自己の振り返りができていると考えられる（資料８、写真７）。

８　研究のまとめ

仮説にそって本研究を振り返り考察したい。

①　物事を多角的・多面的に考え、自分との関わりの中で考えさせる発問

本研究で、物事を多角的・多面的に考え、自分との関わりの中で考えさせる発問を行うことから、自分自身のこととして捉えることができるようになったと考えられる。自分自身の身の回りのことから考えたり、私だったらこのように考えるなど、発問に対して、自分の弱さを実感しながら、考えることができるようになった。本研究を行う前は、道徳的価値を押しつける授業であり、「この価値は大切である」という考えで授業が終わっていた。生徒も意欲的ではなく、道徳は授業の中の 1 つであるという考えであった。自己を理解するために、道徳的価値は大切であるという「価値理解」をし、道徳的価値は大切であるが、実行することが難しい人間の弱さなどを理解する「人間理解」を取り入れ、「自分だったらどうするのか」と、道徳的価値を自分ごととして考えさせることにより、自己を理解する場となり、自分自身のこととして考えることが高まった。また、自分の意見だけではなく、他者の意見と交流・議論させることで、道徳的価値を自分の考えだけの一面から捉えるのではなく、様々な立場から捉える「他者理解」を取り入れることで自己を理解し、より道徳的価値についての考えが深まったと考えられる。

② 道徳的価値をこれからにつなげるための自己の振り返りの場の設定

『生きるヒント』という言葉をキーワードとすることで、道徳的価値が大切であるということだけではなく、一人一人の生徒にとって、これからにつなげていこうとする実践意欲が高まったと考えられる。実際に道徳の授業が終わったあとに、子どもたちの会話のなかで、「その言葉をつかうのはよくないと、道徳の授業で学んだから、やめよう」という生徒が増えた。また、合唱コンクールや修学旅行の取り組みなどの学校行事に、つなげて考える生徒も増えた。このことから、道徳の授業で自己の生き方につながる考えをもつ生徒がいると考えられる。

9　成果と今後の課題

（1）成果

○　自分自身のこととして捉えさせるために、資料の人物の心情を考えさせる発問のみではなく、道徳的価値が大切であるという「価値理解」へ結びつけ、人間的な弱さを実感させる「人間理解」をする発問や、「あなただったらどうしますか？」と、物事を自分の関わりのなかで考えさせることで、授業中に「難しくなってきた」「大切だと分かっていても、できない」という発言が増え、自分自身のこととして捉えることができた。

○　自分の考えだけではなく、異なった意見を聞き、意見を交流するだけでなく、議論を行うことで、自分の意見を相手に納得させる発言の仕方や、賛成や反対の立場からの意見を考え、違った立場から物事を多面的・多角的に考え、より道徳的価値についての理解を深めることができ、自己を見つめることができ、葛藤があるなかでも、個人で道徳的価値について向き合い、自分ごととして考えを深めることができた。

○　『生きるヒント』というキーワードで、自己を振り返る場の設定を行った。今までは道徳的価値の大切さ、学んだことだけの振り返りの場の設定であったが、『生きるヒント』として、今後につなげるための今までの課題を見つけ、今後に生かしていくヒントを考えることができた。

（2）課題

●　自分ごととして捉える発問を行ったときに、より道徳的価値に葛藤しながら、自分ごととして捉え、価値理解するための生徒にゆさぶりをかける補助発問が少なかったため、議論をしていて、意見が変化する生徒が少なかった。特に、モラルジレンマの授業では、きまりの意義を考えさせるために、「この子のために」という資料を使い、授業を行った。きまりは大切だけど、命も大切という意見が多く、きまりは大切であるという「価値理解」をするまでの議論で、補助発問をせずに、生徒の意見をもとに議論を進めた。きまりがないと、乱れてしまうし、他の人の権利を損害しないためにも、きまりを守ることは大切であると考えさせるための補助発問がなかったため、心の葛藤が残ったまま、価値理解への次の発問に進んでしまった。そのため、より深く自分のこととして考えさせるための補助発問の工夫を行う必要がある。

●　自己の生き方についての考えを深めるために、『生きるヒント』をつかって考えてい

く。この振り返る場をより自分ごととして考えていくためには、問題解決学習を取り入れ、道徳的価値を実行できない人間の弱さを理解する「人間理解」の発問の工夫、道徳的価値を一面から捉えるのでなく、議論し、より多面的・多角的に考える学習活動の工夫が必要であると考えた。そして、道徳的価値は大切であると改めて理解する「価値理解」を行う発問を行い、自己を見つめ、自己の生き方を深く考える『生きるヒント』をつかった振り返りの場の設定を展開していきたい。

◎ 参考文献

○「中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説　特別の教科　道徳編」